

全国歴史教育研究協議会 令和2年度 第1回全国理事会 次第

- 1 会長挨拶（2ページ）
- 2 令和元年度会務報告（3ページ）
- 3 令和元年度会計決算（見込み）報告（4ページ）
- 4 令和2年度事業計画（案）（5ページ）
- 5 令和2年度予算（案）（6－7ページ）
- 6 令和2年度役員および顧問
 - ・資料：令和2年度顧問名簿（8ページ）
 - ※令和2年度役員一覧（集約中），
- 7 第61回研究大会（岩手大会）中止に伴う対応（9ページ）
- 8 第62回研究大会（大阪大会）進捗状況（10-11ページ）
- 9 事務局より
 - （1）令和2年度各都道府県研究団体の事務局体制の確認
 - ・各都道府県研究団体事務局に依頼中（6/26締切）
 - （2）全歴研研究紀要第56集
 - ・4月上旬に刊行，各都道府県研究団体事務局に発送済
 - （3）第2回全国理事会の取り扱い
 - ・研究大会当日に開催する総会は中止になることから、総会と一本化する。
 - ・第1回の方法に準じて持ち回り審議とする。詳細は後日、HPやメール等で連絡する。
 - （4）その他
 - ・東京大会時よりTwitterでも全歴研情報の発信開始
- 10 各県より
- 11 その他

ご挨拶

上野勝敏

いつも全歴研の活動にご尽力賜り深く感謝申し上げます。

その大恩ある皆さま方に大変申し訳ないご報告をすることとなりました。衷心よりお詫び申し上げます。

全歴研ではこの7月に予定していた第61回研究大会(岩手大会)の中止を決定することとなりました。

事の始まりは令和2年2月末の内閣総理大臣及び文部科学省の学校一斉臨時休業の要請より始まり、4月になりますと東京都及び大阪府が感染拡大警戒地域に指定され学校再開が連休明けにずれ込む事態となりました。幸い開催県である岩手では感染者を出さない快挙が続きましたが、全国的に外出自粛要請が発令され、大会の開催は困難な状況に追い込まれました。

ここまで大会成功を目指して協働してこられた岩手県でも4月2日(木)に花巻南高校にて、岩手大会実行委員会会長、副会長、各分科会担当者にお集まりいただき大会開催についての協議を頂きました。そして断腸の思いながら感染拡大防止の観点から開催困難との判断を頂きました。大会前4ヶ月となり熱心に発表準備に取り組んでいる提案者を把握している役員の皆様の心中は察するに余りあるものがありました。この重い提案を受けて全歴研では正式に岩手大会に中止を決定させて頂き、4月7日には全歴研HP上で中止の決定を周知させていただきました。

全歴研では岩手大会は開催しませんが、準備頂いた研究成果は〔全国歴史教育研究協議会第57集研究紀要(岩手大会誌上発表)について〕として記録に残して参る所存です。この作成には、事前に事務局より補助として前渡しさせて頂いた50万円の中で編集頂き全国の会員の皆様にも購入いただけるようにしていきたいと考えています。

以上のような経緯をご報告し、多くの皆様の研修機会を奪う判断に至った経緯についてご理解賜えればと存じます。何卒甘受頂きますようお願い申し上げます。

令和元年度 会務報告

令和元（2019）年

- 5月22日 第1回全国理事会 場所：東京都立戸山高等学校
- ・平成30年度 会務報告
 - ・平成30年度 会計決算（見込み）報告
 - ・令和元年度 役員案・事業計画案審議
 - ・令和元年度 予算案審議
 - ・第60回研究大会（東京大会）の準備状況
 - ・第61回研究大会（岩手大会）の準備状況 他
- 7月23日 第2回全国理事会 場所：中野サンプラザ
- ・第60回研究大会（東京大会）の打ち合わせ・準備 他
- 7月24日～7月26日 第60回研究大会（東京大会） 場所：中野サンプラザ
- ・7月24日 午前：総会、午後：分科会
 - ・7月25日 午前：第1分科会（シンポジウム）、午後：記念講演
 - ・7月26日 史跡見学会
 - ・Aコース「嘉納治五郎とオリンピックレガシー～1964年東京オリンピックゆかりの地をめぐる」
 - ・Bコース「船とバスでめぐる大江戸観光～江戸の名所をめぐる」
- 11月9日 第1回常任理事会 場所：東京都立戸山高等学校
- ・第60回研究大会（東京大会）の反省・決算報告
 - ・第61回研究大会（岩手大会）の準備状況 他

令和2（2020）年

- 1月～2月 各地方研究会の活動報告集約
- 2月8日 第2回常任理事会 場所：東京都立戸山高等学校
- ・第61回研究大会（岩手大会）の準備状況
 - ・第62回研究大会（大阪大会）の準備状況
 - ・研究紀要の編集状況について 他
- 2月～3月 大学入試センター試験問題検討委員会（日本史・世界史委員会）
- 3月末以降 『全歴研研究紀要』第56集の刊行

平成 31 年度 令和元年度

全国歴史教育研究協議会会計報告

2.5.19

<特別会計> … 記念大会のための積立としての会計

主な収入 一般会計より組み入れ 200,000 円 ※次回記念大会のための積み立て

主な支出 一般会計へ組み入れ 3,000,000 円 ※東京大会の運営のため

残金 670,144 円

<一般会計> … 通常の業務を遂行するための会計

主な収入 東京大会の会費 1,420,000 円
印税 763,193 円
特別会計より組み入れ 3,000,000 円

主な支出 東京大会に関わる経費 5,002,216 円
研究紀要制作に関わる経費 581,463 円
事務局費 239,128 円

残金 1,783,932 円

詳細については、次回の理事会にてお知らせします。

以上

令和2年度 事業計画（案）

1 全国理事会

第1回 5月

- ・令和元年度 会務報告
- ・令和元年度 会計決算（見込み）報告
- ・令和2年度 役員案・事業計画案審議
- ・令和2年度 予算案審議
- ・第61回研究大会（岩手大会）中止に伴う対応
- ・第62回研究大会（大阪大会）の準備状況 他

第2回 7月中

- ・第61回研究大会（岩手大会）中止に伴う対応
- ・第62回研究大会（大阪大会）の準備状況 他

2 常任理事会

第1回 11月中 場所：未定

- ・第61回研究大会（岩手大会）中止に伴う対応
- ・第62回研究大会（大阪大会）の準備状況 他

第2回 2月中 場所：未定

- ・第62回研究大会（大阪大会）の準備状況
- ・第63回研究大会（茨城大会）の準備状況 他

3 研究大会

第61回研究大会（岩手大会）中止

4 大学入学共通テスト検討委員会（日本史・世界史委員会） 1月下旬～2月

5 『全歴研研究紀要』第57集の刊行 3月

令和2年度 予算案

全国歴史教育研究協議会

一般会計

《収入の部》

	科目	予算額	決算額	増減	備考
1	繰越金	1,783,932		1,783,932	
2	会費収入	10,000		10,000	岩手大会中止により
3	印税	1,000,000		1,000,000	山川出版社印税等
4	雑収入	0		0	助成金・協賛金(研究報告広告等)・預金利息等
5	特別会計より	500,000		500,000	特別会計大会運営基金より支出
	合計	3,293,932	0	3,293,932	

《支出の部》

	研究大会費	500,000	0	500,000	※岩手大会は中止
1	謝礼金	0		0	講師謝礼・パネリスト謝礼・県外提案者謝礼等
2	旅費	0		0	発表者旅費等
3	借損料	0		0	会場使用料・立て看板・音響設備・パソコンレンタル代等
4	研究報告書	500,000		500,000	研究報告書印刷費・資料費
5	大会案内費	0		0	通信費・参加費振込み手数料等
6	消耗品費	0		0	ネームプレート・文房具等
7	予備費	0		0	運搬費・役員旅費等
	研究成果刊行費	952,000	0	952,000	
8	印刷製本費	500,000		500,000	紀要第56集
9	編集費	150,000		150,000	テープ起こし代等
10	配送費	300,000		300,000	紀要発送費
11	消耗品費	2,000		2,000	電子媒体等
	事務局費	400,000	0	400,000	
12	会議費	100,000		100,000	理事会お茶代・交通費・大会打ち合わせ等
13	通信渉外費	50,000		50,000	各種文書発送費
14	HP運営費	220,000		220,000	HP管理業者給与(10,000/月)・通信費等
15	消耗品費	30,000		30,000	ICレコーダー電池・紙・封筒等
	特別会計	200,000	0	200,000	
16	特別会計	200,000	0	200,000	70周年記念大会基金、および研究大会運営基金として
	予備費	1,963,831	0	1,963,831	
17	予備費	1,963,831		1,963,831	
	合計	4,015,831	0	4,015,831	

収入総額

0

支出総額

0

残金

0

令和2年度 予算案

全国歴史教育研究協議会

特別会計

《収入の部》

	科目	予算額	決算額	増減	備考
1	繰越金	670,144		670,144	
2	一般会計より組入	200,000		200,000	大会運営基金・70周年記念大会積み立てとして
3	雑収入	500		500	預金利息等
	合計	870,644	0	870,644	

《支出の部》

	科目	予算額	決算額	増減	備考
1	一般会計へ組入	500,000		500,000	東京大会運営基金
2	雑費	5,000		5,000	振込手数料
	合計	505,000	0	505,000	

収入総額

0

支出総額

0

残金

0

令和2年度 全国歴史教育研究協議会顧問名簿

氏名	出身団体		氏名	出身団体
稲葉 孝	東京		鍛地 秀和	和歌山
臺 靖	東京		進藤 盛隆	京都
中 藺 崇	東京		高原 將	東京
望月 照和	東京		石原 道明	茨城
浅川 浩二	東京		飯田 國雄	東京
岡野 敬生	東京		増田 克彦	東京
西 秀夫	東京		重政 文三郎	東京
小宮 進	東京		三谷 昇	群馬
高田 岩男	東京		黒田 比佐雄	東京
金井 忠雄	東京		豊田 岩男	東京
近藤 梓	東京		佐藤 徹一	東京
滝沢 順勝	東京		鈴木 健一	栃木
後藤 勝	岐阜		村岡 薫	東京
萱原 昌二	東京		川島 敏郎	神奈川
川島 次郎	東京		大橋 俊夫	宮城
猪俣 士郎	大分		長谷川 賢	東京
長田 敬幸	神奈川		勝部 純明	東京
丸山 健一	兵庫		西澤 幸司	岡山
樋口 良夫	群馬		内田 和博	東京
原口 幸男	東京		山崎 茂一	東京
奥山 英男	東京		竹内 秀一	東京
長谷川 裕次	千葉		仙田 直人	東京
亀岡 良平	東京		岡田 健治	神奈川
瀬名波 快侑	沖繩		山田 勝洋	大阪
山田 寛悟	新潟		蔭木 原	兵庫

第 61 回研究大会（岩手大会）中止に伴う対応

（１）大会中止に至る経緯

令和２年度２月末の内閣総理大臣及び文部科学省の学校一斉臨時休業の要請以来、教育環境を取り巻く情勢は、どんどん厳しくなりました。４月に入ると、東京都及び大阪府が感染拡大警戒地域に指定され学校再開が連休明けにずれ込み、感染未確認地域であるここ岩手では県知事が関東圏へ出かけた人や関東圏からの来県者へ２週間の外出自粛要請を発出しました。

そのような状況下、岩手県大会の今後の進め方について話し合うため、４月２日（木）に花巻南高校にて、岩手大会実行委員会会長、副会長、各分科会担当者が集まりました。話し合いの結果、４ヶ月後の岩手大会に全国から集まるのは感染拡大防止の観点から困難である、実際に参加申し込み者数の見通しが立たないという意見が大多数でした。また、各分科会担当者からの研究の進捗状況の報告では、大会前４ヶ月となりとても熱心に各提案者が取り組んでおり、分科会の中で摺り合わせも始まっていることが確認できました。そこで、臨時会議の結論として、大会中止について全歴研事務局に打診することとなりました。また、同時に「岩手大会に関わるこれまでの取り組み、そしてこれからに向けての課題把握という研究成果を、是非全国の先生方にも見ていただくかたちで残したい。」という意見も出されました。

早速、このことを上野会長他事務局の先生へお伝えしたところ、協議していただき、岩手大会中止を受け入れていただきました。これまで、岩手大会を支援し、ご指導いただいた皆様には大変申し分なく思っております。上野会長名で４月７日に全歴研HP上で中止の決定が告知されたのはご案内のとおりです。

（２）今後の対応について

その後、各提案者、発表予定の先生方、出版社も含めた関係各方面へは大会中止の連絡をさせていただきました。また、全歴研事務局には岩手大会へ向けて準備した研究成果は残したいという岩手大会実行委員会の意向を尊重していただいたので、５月１３日（水）の岩手県地歴公民部会理事会で、今後どう進めるか話し合いました。以下はその時の結果です。

〔全国歴史教育研究協議会第５７集研究紀要（岩手大会誌上発表）について〕

ア 作成のための費用、は前もって大会事務局より補助として前渡しされた５０万円を用いる。但し、『研究紀要』編集後、残金は東京の事務局へ戻入する。

イ 日程

５月１３日（水） 地歴・公民部会第１回理事会

５月１５日（金）～２９日（金） 原稿寄稿についてそれぞれの発表者へ打診

６月 １日（月） 『研究紀要第５７集』原稿寄稿依頼発出

→１０月２６日（月）までに提出

１１月 原稿編集・校正

１２月 全歴研事務局へ原稿送付

※岩手県高教研地歴公民科へ『２０２０年報社会科研究』に本県執筆者の原稿を転載する。

ウ 今回の研究紀要執筆者が次年度大阪大会、さらに茨城大会で発表の機会を頂けるよう事務局に働きかけたい。

エ 県内において、執筆者以外は全歴研会費納入をもって『研究紀要』購入の申し込みとするとともに、全国の先生方へも広く配付する機会をご検討願いたい。

岩手大会テーマ 「新しい歴史教育の実践へ向けて
～「問い」や「主題」を中心に構成する単元学習の展開～」

第１分科会テーマ 「新しい歴史教育の実践へ向けて」

第２分科会 「歴史総合へ向けた実践～新しい歴史理解の扉～」

第３分科会 「日本史探究へ向けた実践～新しい歴史理解に基づく日本史探究～」

第４分科会 「世界史探究へ向けた実践～新しい歴史理解に基づく世界史探究～」

第５分科会 「新しい歴史学習の実践～高校歴史学習における ICT 活用の工夫～」

全国歴史教育研究協議会 第62回研究大会（大阪大会）準備進捗状況報告

令和2（2020）年5月19日

全国歴史教育研究協議会 令和2年度 第1回全国理事会

1. 事務局体制

委員長：石井 研吉（府立長尾高校長）

副委員長：内田 正俊（府立福井高校長）・布施 真（大阪市立汎愛高校長）・竹下 健治（昇陽高校長）

事務局長：田村 健（府立守口東高）

副事務局長：宮崎 亮太（関西大学高）

会計：浅田 竜（府立野崎高）

2. 期日 令和3（2021）年7月28日（水）総会・分科会（7月27日（火）に全国理事会を予定）
29日（木）第1分科会・記念講演会
30日（金）史跡見学

3. 大会テーマ 「今、歴史教育のめざすものを問い直す」

4. 分科会・講演会・史跡見学の概要

第1分科会：「教師は歴史教育をどのように学ぶか」

パネリスト：峯 明秀 教授（大阪教育大学）ほか

第2分科会：「歴史総合をどのように学ぶか」

第3分科会：「日本史探究をどのように学ぶか」

第4分科会：「世界史探究をどのように学ぶか」

第5分科会：「教科の枠をこえて、どのように歴史を学ぶか」

※提案者については各分科会でおおよそ決定しているが、岩手大会の今般の事情を鑑みて、岩手大会提案者の先生に大阪大会で提案いただき、大阪大会の提案者を増やして時間配分の編成を工夫するなど、検討の余地はまだ十分にあると考える。

※助言者が未定であり、提案にむけた議論を深めるためには早急に内容を詰める必要がある。

史跡見学：A（大阪市内コース）・B（大阪南部コース）の内容を日本旅行と検討中

可能であれば今夏に下見を実施して詳細を決定する予定

講演会：講師は山内 晋次 先生（神戸女子大学文学部教授）

講演テーマについては今後詰める予定。

5. 会場について

会場：関西大学百周年記念会館、関西大学校友会館（理事会室を使用予定）

懇親会会場：関西大学凜風館（予定）

※今年3月に委員長・事務局長・副事務局長で1回目の下見を実施済み

6. 会計について

- ・大阪大会用の通帳作成。全歴研事務局に昨年度、補助金を依頼済み。
- ・大阪大会予算案を作成して今年度中に提示する予定

7. 実行委員会の正式な立ち上げ

今年3月までに第1回実行委員会を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染対応により遅れている。開催可能な状況になり次第、各校に委員募集を呼びかけた上で開催する。

以上